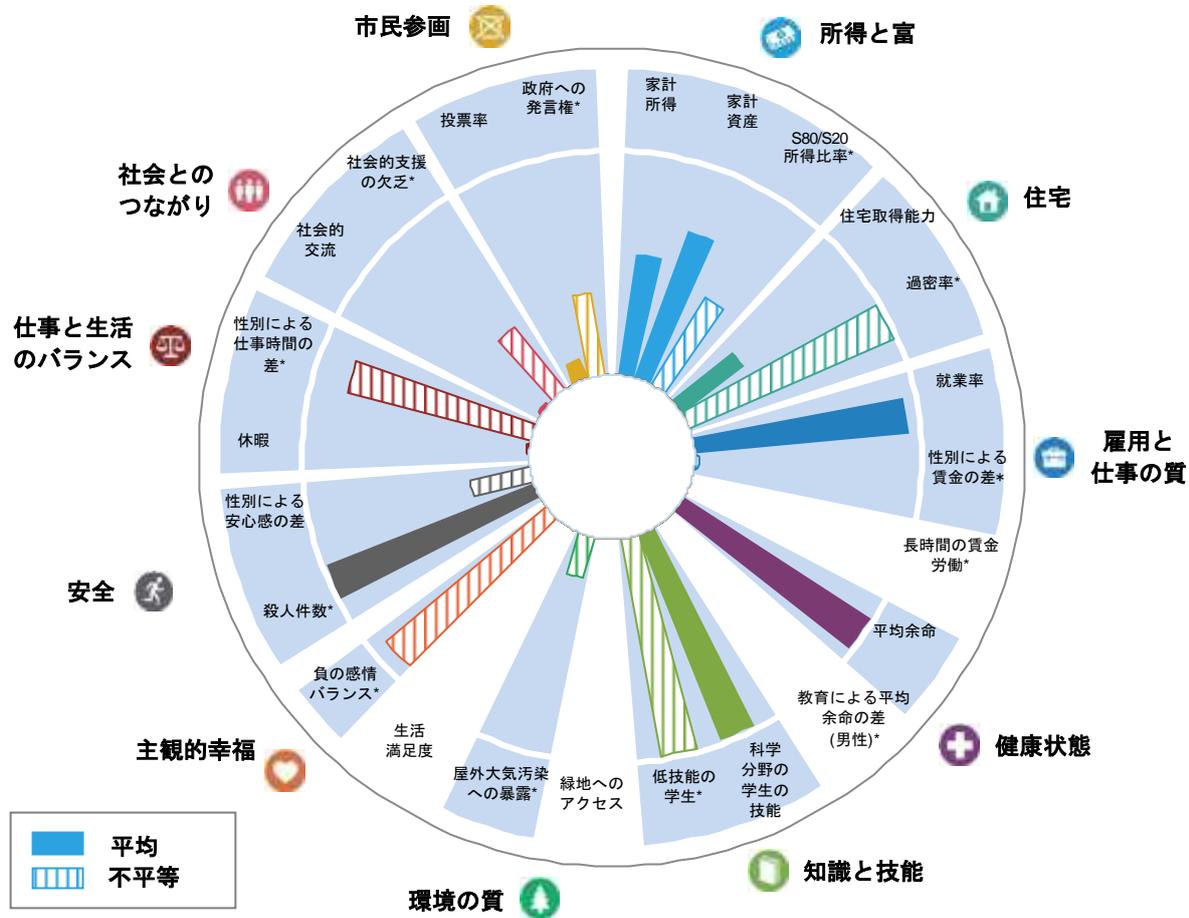


How's Life in Japan?

日本の幸福度（2018年またはデータが利用可能な直近年）



注：このグラフは、各幸福度指標について他の OECD メンバー国と比べた相対的な日本の強みと弱みを示している。線が長い項目ほど他国より優れている（幸福度が高い）ことを、線が短いほど劣っている（幸福度が低い）ことを示す（アスタリスク*がつくネガティブな項目は反転スコア）。不平等（上位層と下位層のギャップや集団間の差異、「剥奪」閾値を下回る水準の人々など）はストライプで表示され、データがない場合は白く表示されている。

将来の幸福に向けた日本のリソース（2018年またはデータが利用可能な直近年）

自然資本	経済資本	人的資本	社会資本
一人当たり温室効果ガス排出量 ② ↔	固定資本生産 ② ↗	若年成人の学歴 ...	他人への信頼感 ...
マテリアルフットプリント ② ↔	政府の金融純資産 ③ ↘	若年死亡率 ① ↗	政府に対する信頼感 ② ↗
絶滅危惧種のレッドリストインデックス ③ ↘	家計の負債 ② ↔	未活用労働率 ② ↗	政治における男女平等 ③ ↔

注：①=OECD 諸国において上位、②=OECD 諸国において中位、③=OECD 諸国において下位。「↗」は改善傾向にあること、「↔」は明確な変化がないこと、「↘」は悪化傾向にあること、「...」は 2010 年以降において傾向を決定するために十分な時系列データがないことを示す。方法論の詳細は『Reader's Guide of How's Life? 2020』を参照のこと。

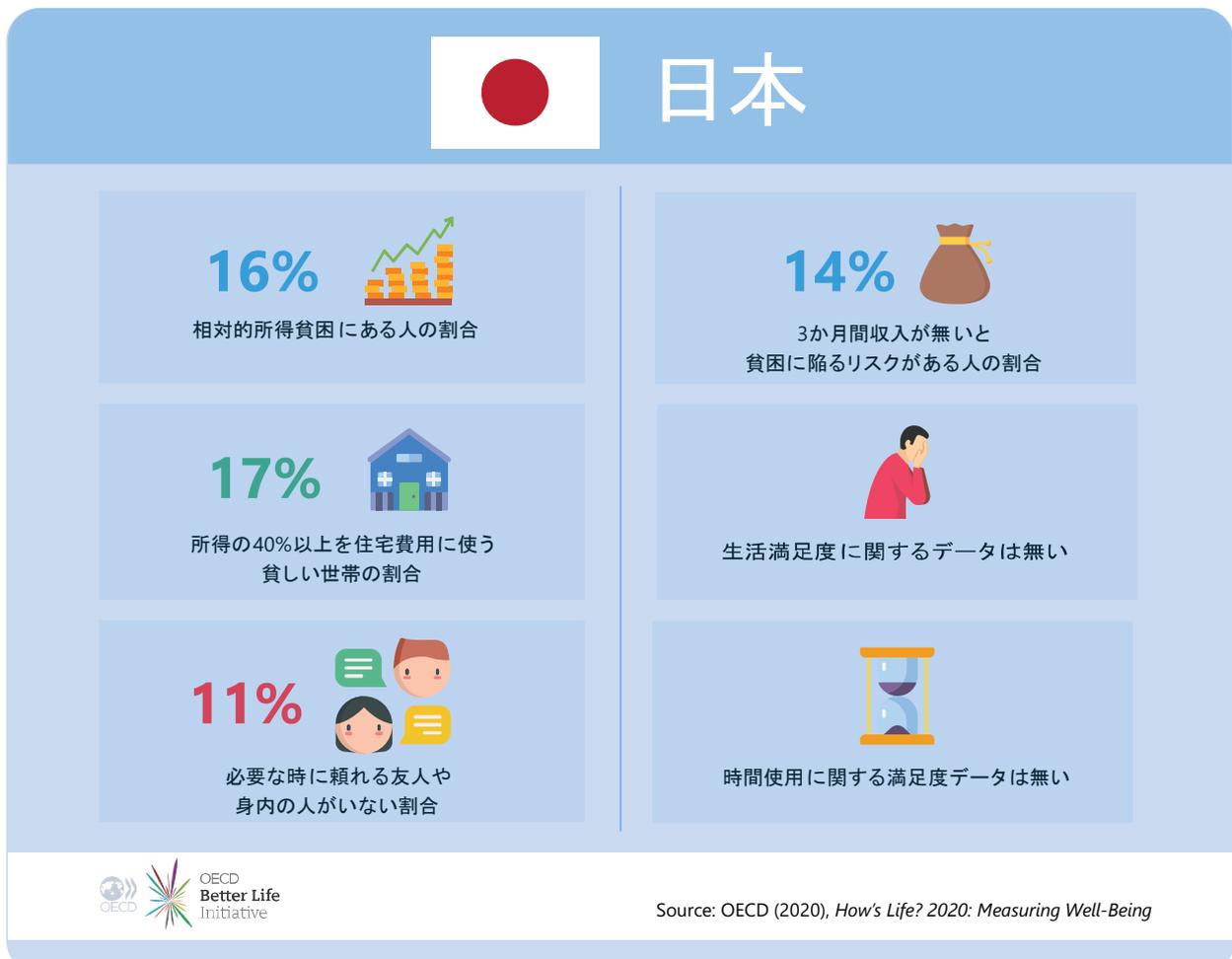
より詳細な情報について

傾向を決定するために用いられた方法論を含むレポート全編：<https://doi.org/10.1787/9870c393-en>

この国別プロフィール作成に用いられたデータ：<http://oecd.org/statistics/Better-Life-Initiative-2020-country-notes-data.xlsx>

日本における「剥奪」の状況

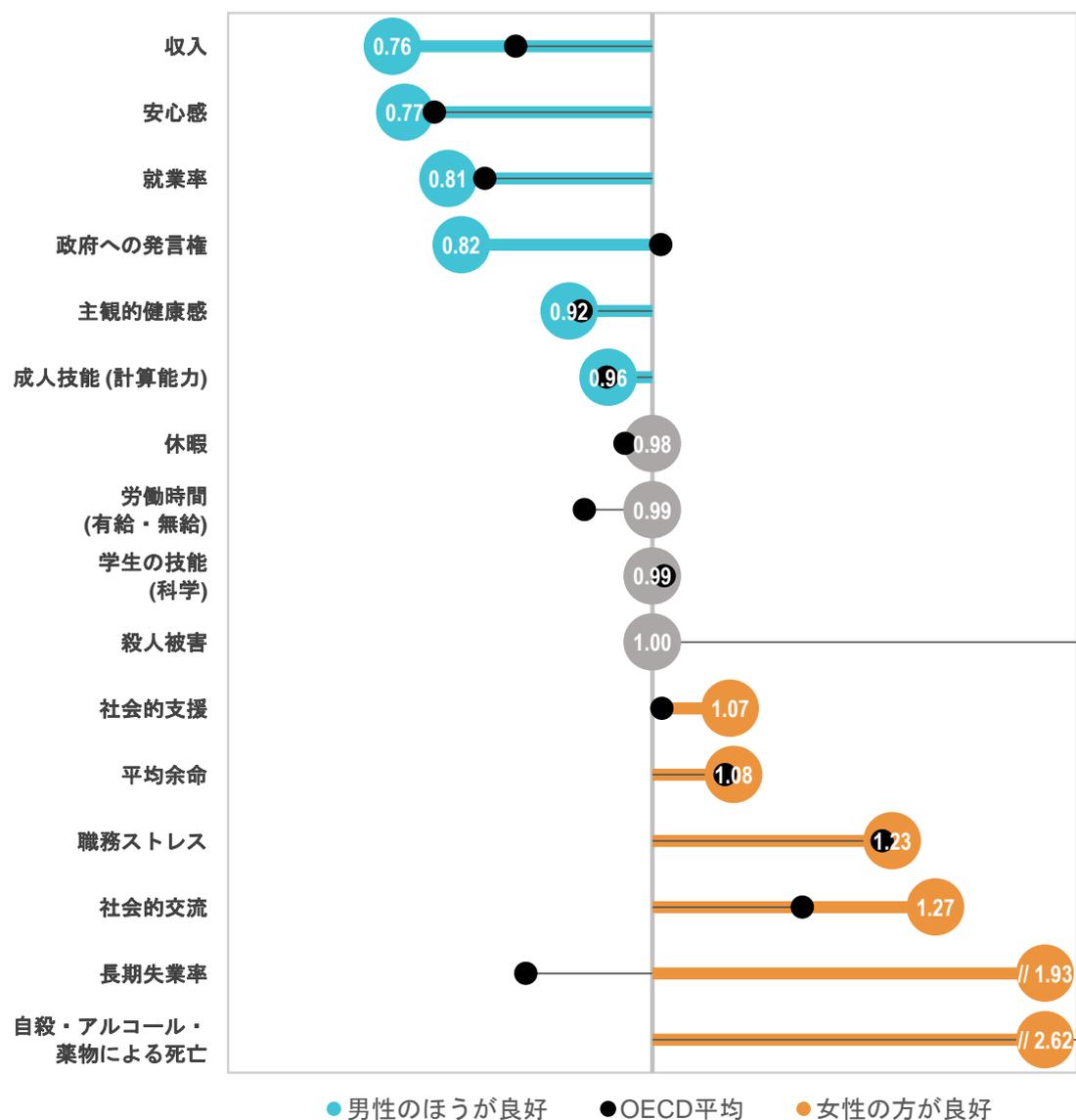
2018年またはデータが利用可能な直近年での幸福度指標における「剥奪」の状況



注：ここでの相対的所得貧困率は、世帯可処分所得が国民全体の中央値の50%を下回る世帯の比率のことである。金融不安とは、所得貧困ではないものの、当該国の相対的所得貧困線上で最低3か月生活できるだけの流動性のある金融資産がない個人の比率のことである。住宅費超過とは、所得分布の下位40%に属し、可処分所得の40%以上を住宅費に費やす世帯の比率のことである。生活と時間使用についての低満足とは、生活と時間使用についての満足度を4以下（0～10の尺度）とする人口の比率のことである。

日本における男女間の格差

2018年またはデータが利用可能な直近年での幸福度指標におけるジェンダー比率（均等状態からの距離）

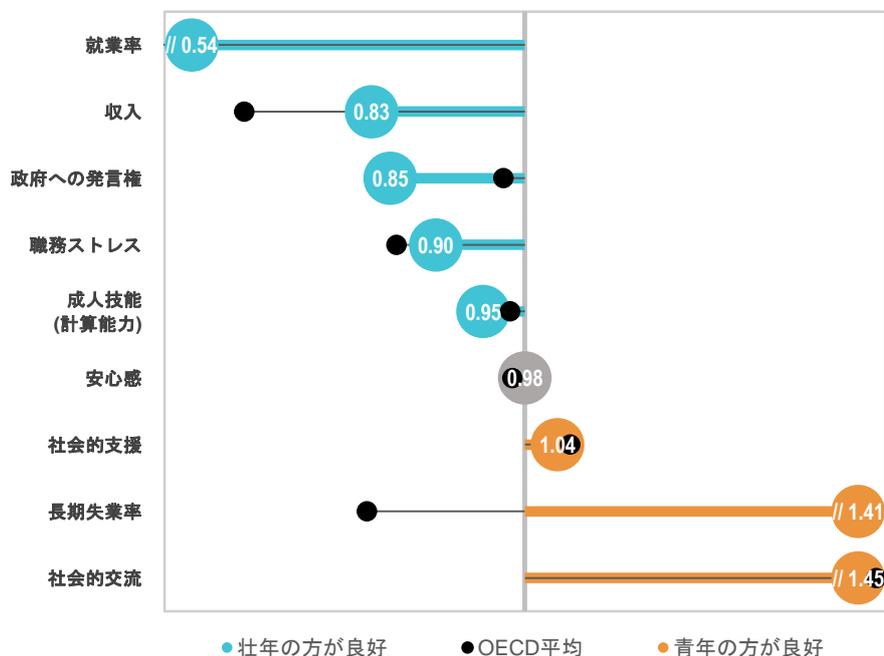


注：灰色の円は男女間で明確な違いがないことを示す。ここではジェンダー比率が均等状態から 0.03 ポイント以内にあることを明確な違いがないことと定義している。

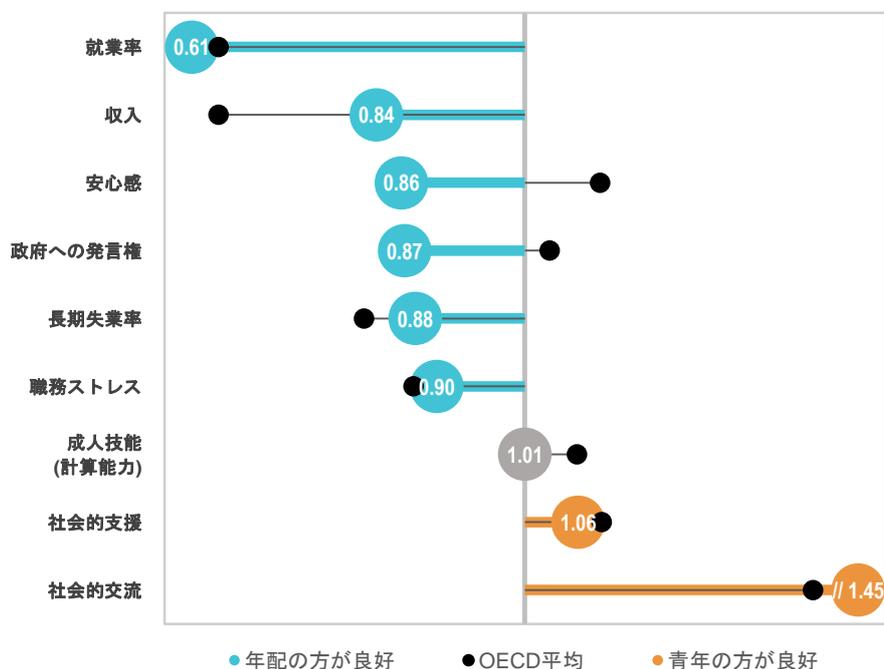
日本における世代間の格差

2018年またはデータが利用可能な直近年での幸福度指標における世代比率（均等状態からの距離）

A. 青年と壮年



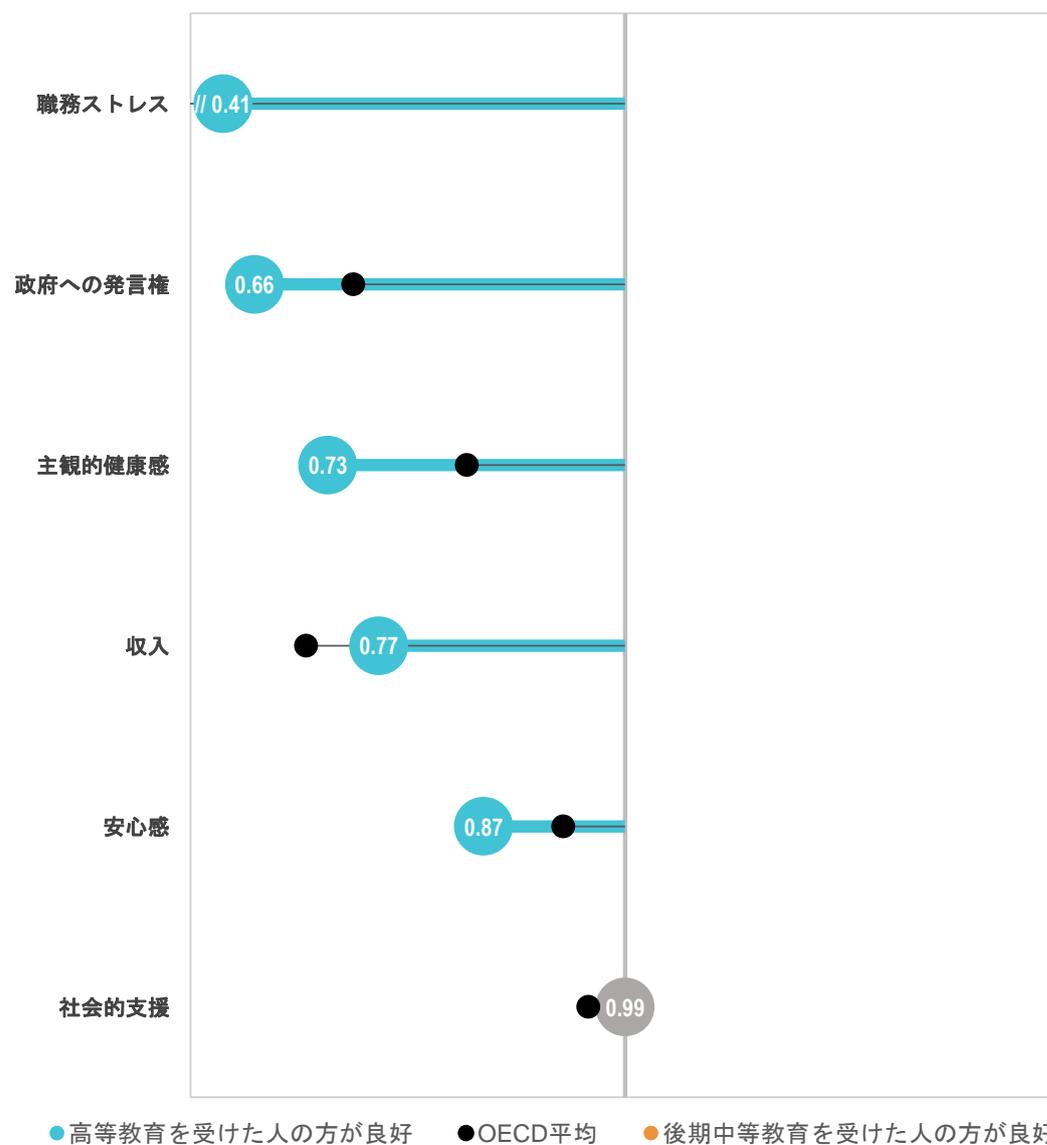
B. 青年と年配



注：世代の範囲は指標によって異なり、あくまで大まかに比較を行うものである。概して15歳から24歳または29歳を青年、25歳または30歳から45歳または50歳を壮年、50歳以上を年配としている。詳しくは『How's Life? 2020』を参照のこと。灰色の円は世代間で明確な違いがないことを示す。ここでは世代比率が均等状態から0.03ポイント以内にあることを明確な違いがないことと定義している。

日本における学歴の異なる人々間の格差

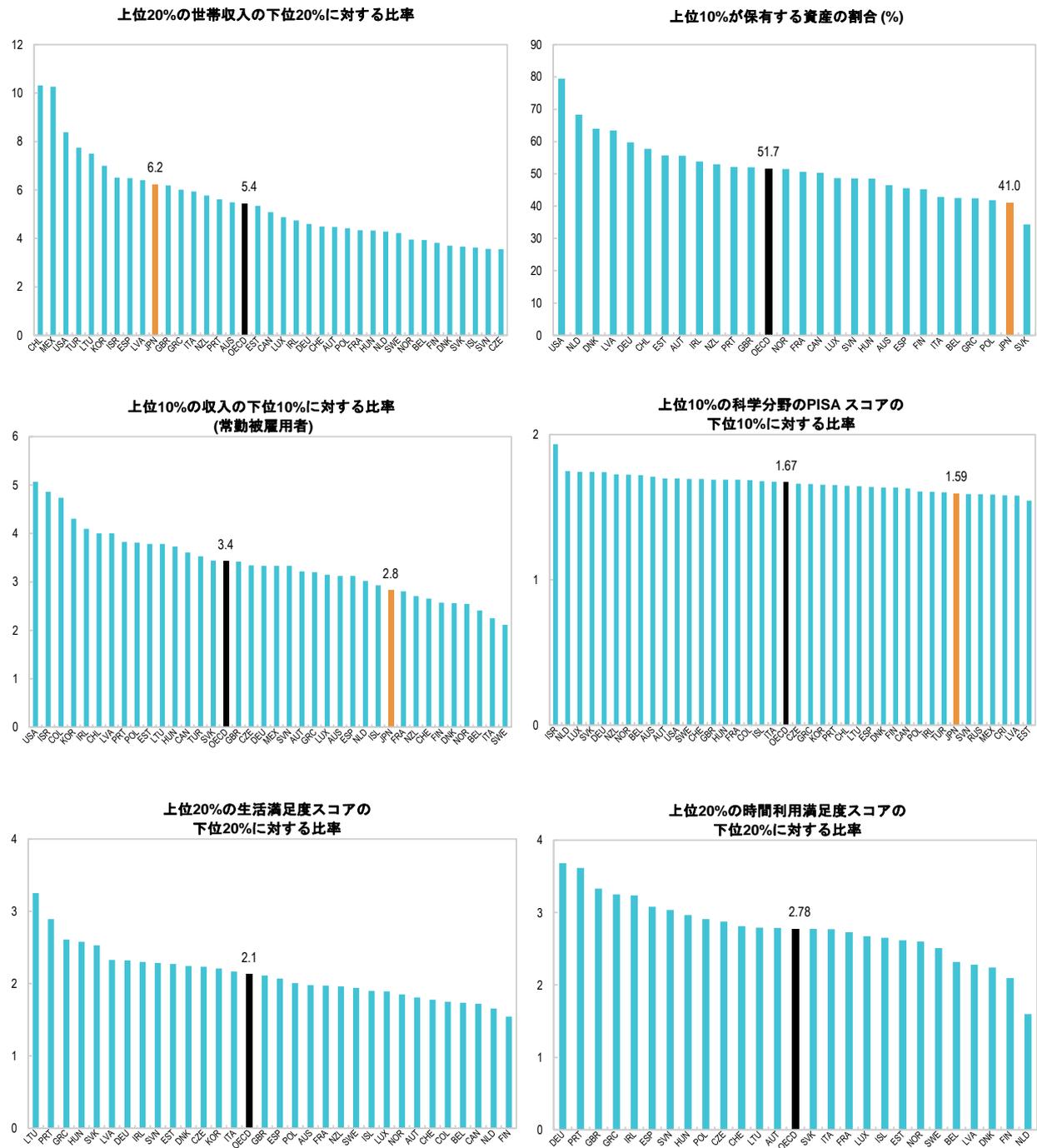
2018年またはデータが利用可能な直近年での幸福度指標における学歴比率（均等状態からの距離）



注：灰色の円は学歴の違うグループ間で明確な違いがないことを示す。ここでは学歴比率が均等状態から 0.03 ポイント以内にあることを明確な違いがないことと定義している。

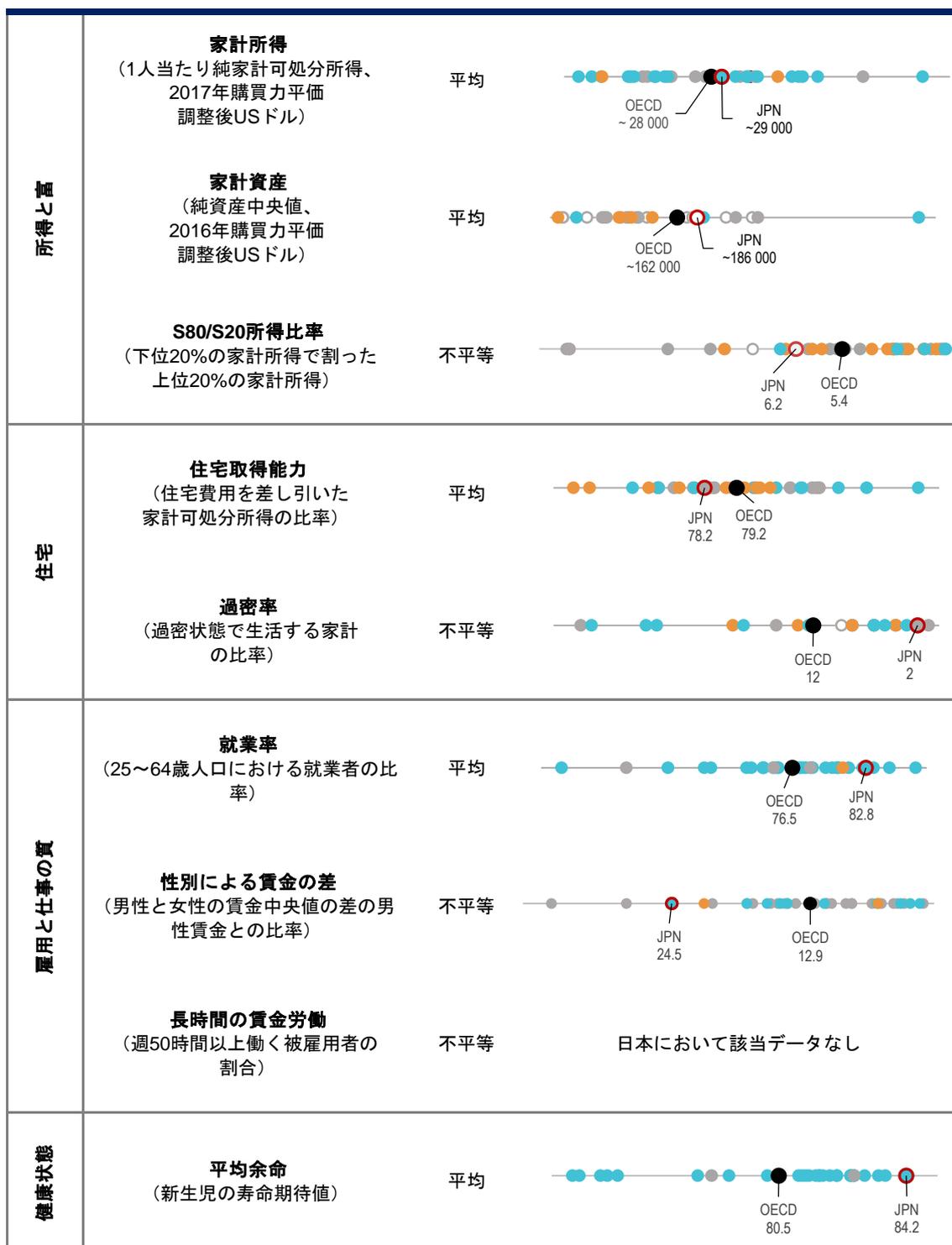
日本における上位層と下位層の間の不平等

2018年またはデータが利用可能な直近年での幸福度指標における垂直的な不平等



注：上記全てのグラフにおいて、左が上位（最も平等）で右が下位（最も不平等）。

日本における 2010 年以降の幸福度の傾向 - I



注：このスナップショットは 2018 年またはデータが利用可能な直近年での幸福度指標を示す。円の色は 2010 年またはデータが利用可能な直近年と比べた変化の方向を表す（●=改善傾向、●=悪化傾向、●=明確な傾向なし、白色は傾向を決定するために十分な時系列データがないことを意味する）。OECD 平均は黒色で示されている。方法論の詳細は『Reader's Guide of *How's Life? 2020*』を参照のこと。

日本における 2010 年以降の幸福度の傾向 - II

知識と技能	<p>科学分野の学生の技能 (PISA平均スコア)</p>	平均	<p>OECD 489</p> <p>JPN 529</p>
環境の質	<p>屋外大気汚染への暴露 (人口比率 > WHO閾値)</p>	不平等	<p>JPN 80.6</p> <p>OECD 62.8</p>
主観的幸福	<p>生活満足度 (0~10段階での平均値)</p>	平均	日本において該当データなし
	<p>負の感情バランス (昨日と比べて前向きな感情よりも負の感情を持つ人の比率)</p>	不平等	<p>OECD 13</p> <p>JPN 9</p>
安全	<p>殺人件数 (人口100,000人当たり)</p>	平均	<p>OECD 2.4</p> <p>JPN 0.2</p>
	<p>性別による安心感の差 (夜間に1人で歩く際に女性が男性よりも不安を感じる比率)</p>	不平等	<p>JPN -19.5</p> <p>OECD -16</p>
仕事と生活のバランス	<p>休暇 (1日当たりの余暇や身の回りのことに使う時間)</p>	平均	<p>JPN 14.1</p> <p>OECD 15</p>
社会とのつながり	<p>社会的交流 (1週当たりの時間)</p>	平均	<p>JPN 2</p> <p>OECD 6</p>
	<p>社会的支援の欠乏 (困ったことがあった時に頼ることができる友人や親戚がない人の割合)</p>	不平等	<p>JPN 11</p> <p>OECD 8.6</p>
市民参画	<p>投票率 (投票を行った登録有権者の割合)</p>	平均	<p>JPN 53</p> <p>OECD 69</p>

注：7 ページの注を参照のこと。